参 考 資 料１

# 文化審議会国語分科会日本語教育小委員会の成果物に関するアンケート

（地域日本語教育コーディネーター研修　平成２３年１１月１４～１５日：参加者２０名）

## Ⅰ　所属

①地方自治体（教育委員会を含む。）１人　　②国際交流協会　７人
③ＮＰＯ法人　１人　　④任意団体　４人　　⑤その他　４人

## Ⅱ　日本語教育小委員会の成果物（「カリキュラム案」「ガイドブック」「教材例集（検討中）」）について

**質問１　カリキュラム案，ガイドブックについて**

① 両方とも本研修以前から知っていた　（５人）
② カリキュラム案のみ，本研修以前から知っていた　（５人）
③ ガイドブックのみ，本研修以前から知っていた　（０人）
④ 両方とも本研修で初めて知った　（７人）

**質問２　カリキュラム案とガイドブックについて**

**２－１　それぞれどこで知りましたか。**

**【カリキュラム案】**

① 文化庁ホームページ　（３人）
② 文化庁日本語教育大会　（２人）
③ 知人から　（１人）
④ 所属団体に標準的なカリキュラム案が配布された　（１人）
⑤ 学会や研究会，シンポジウムなどのイベント　（４人）
⑥ 知人から　（０人）
⑦ その他　（０人）

**【ガイドブック】**

① 文化庁ホームページ　（２人）
② 文化庁日本語教育大会　（０人）
③ 知人から　（０人）
④ 所属団体に標準的なカリキュラム案が配布された　（１人）
⑤ 学会や研究会，シンポジウムなどのイベント　（２人）
⑥ 知人から　（０人）
⑦ その他　（０人）

**２－２　カリキュラム案やガイドブックを活用・利用したことがありますか。**

① カリキュラム案とガイドブックを活用・利用したことがある　（１人）
② カリキュラム案を活用したことがある　（３人）
③ ガイドブックを利用したことがある　（０人）
④ どちらも活用・利用したことがない　（６人）

**２－３　カリキュラム案やガイドブックを具体的にどのように活用・利用しましたか。（プログラム作成のために活用した場合，そのプログラムの対象者，人数，学習目的，活用方法についてお書きください。）**

・　カリキュラム案に目を通したが，十分に活用しているとは言えない。2011 年度，会員対象のブラッシュアップ研修会の折，講師がカリキュラム案の骨子を説明されるのを聞いた（参加者 30 名）。
・　まだ，ガイドブックがなかったので，カリキュラム案のやりとりの例を応用し，会話練習に活用しました。
・　今回の課題「実践活動」の作成の際，参考にした。
・　震災後の急きょ作った会話クラスに使用するためのカリキュラム制作に使用。
・　モジュラー型の教材，10 回分，「非常のとき」「病院で」「銀行で」「電話のかけ方」……，など作る際に参考にした。対象者は日本語初級外国人（みんなの日本語Ⅰ・Ⅱ，初中級），40 人，グループ編成で各グループ 4 人程度。
・　ガイドブックを使用して文化庁委託日本語教室を行った（対象者：外国人配偶者　人数：約 10 人　学習目的：試着をする，金融機関を利用する，など。活用方法：カリキュラム作成に役立て，ほぼこれに沿って授業を行った）
・　子育て中の母親，10 人ぐらいを対象に生活言語としての日本語習得に活用する
・　活動一覧項目が多言語になっているので，学習者ができること・できないこと(Can-Do)，ニーズ調査を行なうのに使用し，カリキュラム（活動内容）を決めるのに使う予定。

**２－４　カリキュラム案・ガイドブックが役に立った点・良かった点についてお書きください。**

・　日本語ボランティアを始めたばかりの会員や，「多文化共生」ということを知りたい人々に，指針として「読んでみてください」とカリキュラム案を紹介できる点。
・　今後，地域の日本語ボランティ教室の活動プログラムを作る上でとても役立つところが良いと思います。
・　カリキュラム案は具体的でわかりやすい。ガイドブックは「４日本語教育プログラムの作成手順」が役に立った。
・　このようなクラス運営は始めての経験で苦労したが，どうにかカリキュラムを作りボランティアを集めて指導法など説明会をした。その際，このようなものになった根拠を聞かれた時，文化庁のカリキュラム案を参考にして作ったというと，皆納得してくれた。また，場面により分けて作られていたのでとても参考になった。
・　生活者としての外国人のためにはどんな日本語を教えたらいいのか，具体的にわかってよかった。これに沿ってプログラムを組んでいきたいと思う。できれば，もっと詳しいテキストがあればよかったと思った。
・　４技能についても〇があるのでわかりやすい。また，単位は時間の目安になっていい。
・　場面ごとの設定であるところと教室活動を行う際の参考資料（例）

**２－５　カリキュラム案・ガイドブックで改善が必要な点や活用・利用のために必要なことについてお書きください。**

・　「リソース型生活日本語」（国際日本語普及協会）との違いがわかりにくい。また，冊子の性質上仕方がないと思うが，細かい文字で多くの項目が並んでいるので，年配者にとっては目が疲れる。

・　やはり，活用するための研修会（コーディネーター対象）が，あればよいです。
・　日本語教育についての知識を持っている必要がある。コーディネーターの役割のみ持っている者には理解が難しいと思われる。
・　今回ガイドブックならびに教材例集をいただいて，あらためてカリキュラム案を見直して，活用したいと思った。
・　カリキュラム案だと，会話のやりとりが大変簡単なので，もっと詳しいものが欲しいと思った。ガイドブックを使うとやり方がわかって助かります。もっと詳しいプログラムの組み立て方（これに出てくる話題だけではない）があるともっと助かります。
・　地域ボランティアなどで使用する場合，カリキュラム全体について精通・把握している（講習会等を受けている）指導者・リーダーが必須。

**質問３　教材例集について**

**３－１　よいと思われる点，活用できそうな点についてお書きください。**

・　教材（イラスト・写真，活動シート，ことばシート，別表）がセットになっていて使いやすそうに感じられる。可能な限り，実物を教室に持ち込んだ方がよいと思うが，そうできない場合にも実物写真（問診票，薬のラベル，防災訓練，等）にインパクトがある。指導ノートがあるので，新人ボランティアにも活動のイメージがつかみやすい。
・　シートになっているので，必要なシートを教室活動に使うことができると思います。子どもたちにも活用できそうです。
・　日常生活に根付いた状況設定がされていて，よく用いる語彙・表現が使われている点。
・　読みやすい（字の大きさ，図が使われて視覚的に理解できる）
・　「各教材例の構成の図」は凄くわかりやすいと思いました。
・　これが基本だが，いつも教案を作る際に皆はどうしても文型の説明から入っている。
・　「文型が分かる＝話せる」の構造である。この図を見せて皆の教室での提示の仕方を再考させたい。
・　タクシーの課など，面白い。タクシーに乗るかは疑問であるが，教えておくことは必要だ。学習者に国のことを話させて活性化させることはどの場面でも有効な学習方法です。
・　生活になじんできたレベルの人たちには，このような場面設定で会話練習するのは有効だと思う。このままコピーするのではなく，この教材例集をヒントに教材を作っていきたい。
・　日本語教育の専門知識が全くないので，正直なところ，全くわかりません。ただ，カリキュラム案を昨年の日本語教育大会でいただいた時，分類コードのついた細かい表が延々と続いており，「現場でどうやって使うのだろう？？」と戸惑ったことを憶えています。教材例集では，カリキュラム案の分類に基づいた具体例が豊富な絵や写真とともに示されているので，現場で使いやすそうです。また，教材例を参考にして真似をしながら，カリキュラム案が使えるのではないか，と思いました。
・　最初の病院に行く時の日本語から，「使える！」と思いました。また，ＨＰのアドレスが入っているのも，ありがたいです。これに沿ってやっていけば，学習者にとって，病院に行くのは少し気が楽になると思います。指導する方としても，助かります。薬のところもよかったです。神奈川県薬剤師会の分や，製薬会社の外国語のＨＰは，学習者にぜひコピーして渡しておきたいと思います。（多言語問診票はすでに渡しています）早く，実用化されることを望みます。

・　これがあれば，地域日本語教室での活動がよりやりやすくなると思う。カリキュラム，教材，ガイドブックの３点セットで地域に紹介したいので，教材例習の完成を期待している。
・　目の前にある教材の言い方，使い方にのみ終始するボランティアも多いので，「活動の前に確認しておくこと」「準備する素材」の項目が例としてあるのがよい。
・　日常生活において学習支援者がどのような物・情報を使って行動しているかを考え，教室活動を行うことが大切だということを「１.地域における日本語教育で大切なこと」に書いておくといいと思われます。

**３－２　改善が必要と思われる点，活用するために必要なことについてお書きください。**

・　教材集の外観や分量が，学習者に威圧感を与えないものであってほしい。
・　P13 の症状は　少しわかりにくかったです。内科と外科に分けるとか，同じ部位は　まとめるとか，絵を入れるとか･･･。P67~70 のリストは　あいうえお順でもなく少し分かりにくいです。
・　P71　図で示して頂けるとよく分かります。できれば，語彙 INDEX が，あるといいです。
・　振り仮名の打ち方，母語表示が一定でないが，加工することが前提であるから，問題にしなくてもよいのか？。
・　１０ページ　Ｂさん「あの，お風呂に入っても大丈夫ですか。」お風呂に入ってもいいかと尋ねるのは日本人の生活スタイルが基本になっているような気がする。外国人には医者の方から「今日はお風呂に入らないでください。」という方が自然だと思う。患者になぜかと聞かれたら，温めない方がいいからというような医者のアドバイスがあると思う。
・　６３ページ　「牛乳はどこですか」これについて。基本のことばとしては「〇〇はどこですか。」は使うと思いますが，私の考えるところ，まだ日本語もおぼつかない人は，まず聞く前に目で探します。特に「牛乳」など分かりやすいものは自分で探した方が煩わしくない。自分の経験から「まず聞かないで自力で探す」が感想です。もし，探し物をするのであれば例とは言え，もっと見つけにくいものを例に出した方がいいのではないでしょうか。
・　電子媒体からダウンロードできれば，加工がしやすい。
・　病気の症状のところでは，「鼻がムズムズする」とあるなら，痛みのいい方もいるのではないかと思いました。薬のところもよかったですが，神奈川県薬剤師会の表記がまちがっていました。
・　生活面も，これだけではなく，カリキュラム案に沿って，様々なシーンがあるといいと思います。
・　比較的特殊な語彙（医療関係・法律関係など）リストに多言語訳があるとよいとおもう。
・　コミュニケーション活動とはどのようなことを言っているのか具体的な教室活動展開例を示すのも必要です。
・　「指導ノート」→「活動ノート」：指導ではなく，活動・支援という視点を理解できる教材であるべきだと思います。

**質問４　日本語教育小委員会の成果物（カリキュラム案，ガイドブック，教材例集（検討中））について御自由に感想や意見等をお書きください。**

・　今回の研修でカリキュラム案もガイドブックも初めて知りました。内容が多くて，まだ

きちんと目を通すことができていませんが，各地域で様々な背景・ニーズを持つ外国籍の方の日本語教育の指針になるものになればうれしと思います。教材例集はこれが完成すれば，写真もあり，わかりやすく，使いやすいものになると思います。

- 生徒が地域で生活する上で最低限必要な日本語を把握することができる。
- 日本語教室のボランティア教師でこの内容を共通理解し，これを軸にして生徒のレベルや教室で補うべき点を確認したい。
- ここに示されたカリキュラムを，ボランティア教師がレベルに応じて応用する力を養いたい。
- 一般的な会話だけでなく，地域の特性や生徒の生活に合った会話の例やレアリアなどを開発し，今後の教案作りに生かしたい。
- 地方にいると，中央で進められている委員会の成果物（今回は，カリキュラム案等）を目にすることがなかなかできません。
- ホームページで検索するほかに情報入手をする方法がないのでしょうか。
- 教材例集は，当地に合うように加工してもよいのでしょうか。良いということであれば，電子媒体の教材が活用しやすいです。
- 今後，当地域で新たに開く日本語教室で，ぜひこれらの成果物を活用したいと思うが，そのためにもぜひ「標準的なカリキュラム案の使い方に関する研修」を早期に実施していただきたい。また，文化庁のＨＰ等において，成果物を活用した各地域の実践的活動をぜひ紹介していただきたい。
- 教材例集はすぐに使えるものがたくさんあるので，早い完成をお待ちしています。
- ガイドブックは，今回の課題「実践活動」作成に役立ちました。
- 地域の日本語教室の実践者（ボランティアの方々）に広くいきわたることが重要。
- これらの成果物を参考に，地域の情報の伝達という大きな課題も含めて，より生活に密着した学習内容に従来のプログラムを改善していく必要があると感じている。何よりも日本語指導者側の意識を変えていくための取組を進めていきたいと思っている。
- 教材例集ではスキーマを活性化させるために「～をしてみよう」などと指導法が書いてあるのがいいので早く使ってみたい。また「ねらい」など指導ノートにより本当の使える日本語を教える方法がよく分かる。
- 2011 年度の「生活者のための初級日本語講座」を開催するに当たって，標準的カリキュラム案を参考にしようと考えたが，全くの初心者がいるクラスでは，まず数字やものの名前，曜日，日付などに時間をとられ，場面の会話に入れたのは，後半にはいってからであった。ある程度日本語が理解できる人たちのクラスにおいては，緊急時の対応やよく使われる表現をききとることなど，このカリキュラムに沿って学べば効果があると思う。
- つい最近，AJALT の研修会に参加し，リソースを使った日本語指導法を勉強しました。その時は，一つ一つリソースをつくり貯めていかなければならないなんて，気が遠くなる話だと，あまり気が進みませんでした。しかし，もう成果物としてできたものがあり，それに現場の実情に合わせて付け足していけばいいということが分かり，気が楽になり積極的に活用させていただこうという気になりました。
- 初めて今回の研修で知りました，現場でのカリキュラムが必要順に書かれて，勉強になりました。正直，文化庁がここまで多文化共生日本語教育に力を入れておられていた事に驚かされ，情報取得の悪さを反省しました。神奈川県内のある市では在住外国人比率が高い割には，今まで，行政が目を向ける事もなく，すべて日本語教室指導者が対応してきましたが国際ラウンジ立ち上げを機会に多方面での情報招集が出来，行政と共に活動出来る

一歩が進めて行ける実感を感じました。

- 現在，発売されている教材は，どうしても対話型や，この成果物のような生活者のための物が少ないため，教材を選ぶのに苦労します。地方在住ですと，書店にもこのような本が少ないことから，現物を見られずに本当に選択が大変です。このようなリソースを私たちが早く使えるようになることを望みます。教材例集が出ると，本当に助かります。期待しています。
- ぱっと見た時に，カリキュラムがとにかく「見にくい」という印象を受けます。分類のための数字とかは完成時には無くなるのでしょうか?
- 使用する想定は地域ボランティア教室ですよね?（カリキュラム＞ガイドブック＞教材例集の順にみにくい・判りづらい）地域で活動している年輩の人たちにとっては，こんなに細かい字の分かりにくいこまかいものを解読してまでがんばって使おうとは絶対に思わないと思います。もう少し一般の人にも分かるように簡単な日本語で大きい字で書いてあると，すぐ地域ボランティア教室で活用できると思います。
- 個人的にはこういういいものができてありがたいと思いますし，完成したあかつきには地域ボランティア教室に勧めようとは思っています。ただその前に自分がしっかり読みこんで理解しないとと思っています。
- 地域日本語教室に適した教材・プログラムをいつもボランティア（日本語教育専門家のアドバイスが受けて）が選定していくのは，能力的にも時間的にも負担が大きかった。このような「生活者としての外国人」に対して標準的なカリキュラムと教材例集があれば，大いに助かる。これまで必要と思われる内容を独自の方法で取り上げ対話活動で行ってきたが，それは一貫性がなかった。標準的なカリキュラムを活用し適宜現場に即した用い方をすれば，省力化とニーズに沿った教室活動ができるようになるのではないかと期待している。
- 日本語教育の専門家が地域日本語について理解し，地域日本語教育コーディネーターの下で活用する場合は有用な３点であると思います。しかし，これが独り歩きすることの弊害を考えると，活用のために紙ベースだけではなく，活用方法の説明会なども必要だと思われます。